

## No.1 桜島火山地質図（第2版）正誤表

（2018.4 現在）

		誤	正
本文 p. 3	図 2 Sz-S (P14) の体積	14km <sup>3</sup>	11km <sup>3</sup>

## No.2 有珠火山地質図（第1版）正誤表

（2007.2 現在）

		誤	正
本文 p. 1	右列下から 17 行目	短かい	短い
	右列下から 7 行目	短かく	短く
	右列下から 2 行目	沖合いまで	沖合まで
本文 p. 5	左列上から 11 行目	パン皮火山弾	パン皮状火山弾
	右列上から 5 行目	噴火を	噴火は
本文 p. 6	左列上から 6 行目	パン皮火山弾	パン皮状火山弾
本文 p. 7	左列下から 2 行目	繰返し	繰り返し
本文 p. 8	第 2 表の 12	パン皮火山弾	パン皮状火山弾
本文 p. 9	左列上から 6 行目	僅かづつ	僅かずつ
本文 p. 10	右列下から 32 行目	formaion of lava	formation of lava

## No.3 草津白根火山地質図 正誤表

(2007. 2 現在)

		誤	正
本文 p. 1	右列上から 14 行目	向って	向 <b>か</b> って
本文 p. 7	右列上から 11 行目	異なる	異 <b>な</b> る
本文 p. 9	文献 下から 23 行目	早川由紀夫:	早川由紀夫 (1983)
	文献下から 23 行目	地質学雑誌 (投稿中)	地質学雑誌, vol. 89, p. 511-525.
	文献 下から 15-16 行目	vol. 17, p. 180-199.	vol. <b>15</b> , p. <b>12-25</b> .
	文献 下から 14 行目	太田良平 (1954)	太田良平 (195 <b>7</b> )
	文献 下から 9 行目	噴火について	水蒸気爆発
本文 p. 10	文献 上から 18 行目	について,	について.
	左列下から 21 行目	southeastery	southeasterly
	右列上から 7 行目	acitivity	activity
	右列上から 17 行目	vegitation	vegetation
	右列上から 20 行目	ocourred	occurred
	右列下から 3 行目	concentrations	concentration

No.4 阿蘇火山地質図 正誤表

(2013.10 現在)

		誤	正
凡例	3 列目, Aso-3 火砕流	ガラス火山灰及び軽石またはスコリア (A, D) Vitric ash and pumice or scoria	ガラス火山灰, 軽石またはスコリア及び溶結凝灰岩 (A, D) Vitric ash, pumice or scoria and welded tuff(A, D) [第 3, 4 刷は修正済み]
本文 p. 3	右列下から 6 行目	少くも	少なくとも [第 4 刷は修正済み]
本文 p. 6	左列上から 20 行目	岩石と異なる	岩石と異なる [第 4 刷は修正済み]
	左列下から 4 行目	少く	少なく [第 4 刷は修正済み]
	右列上から 6 行目	西歴 553 年	西暦 553 年 [第 4 刷は修正済み]
本文 p. 7	左列上から 4 行目	少いが,	少ないが, [第 4 刷は修正済み]
本文 p. 8	右列英文, 下から 8 行目	buidings	buildings [第 4 刷は修正済み]
地質図	地質図左端の経度表示 (左上隅, 左下隅の 2 か所)	130° 57' 12"	130° 57' 08"

## No.5 北海道駒ヶ岳火山地質図 正誤表

(2007.11 現在)

		誤	正
表紙	著者名	吉久泰樹	吉久康樹
本文 p. 2	第 1 表右列 1640 年	津軽発生	津波発生
本文 p. 4	右列上から 6 行目	『雑羅記録』	『新羅之記録』
本文 p. 5	第 1 図右下の凡例	Sumi and Terashima	Sumi and Takashima
本文 p. 10	左列上から 31 行目	p. 1-18.	p. 287-304.

## No.6 浅間火山地質図 正誤表

(2006.12 現在)

		誤	正
本文 p. 5	右列上から 5 行目	1 枚づつ	1 枚 <b>ず</b> つ
本文 p. 7	右列下から 7 行目	パン皮火山弾	パン皮 <b>状</b> 火山弾
本文 p. 8	左列上から 7 行目	距った	距 <b>た</b> った
	左列上から 16 行目	パン状火山弾	パン皮 <b>状</b> 火山弾
本文 p. 10	右列上から 17 行目	vegetation	veg <b>e</b> tation
	右列上から 20 行目	ocourred	oc <b>c</b> urred
	右列下から 3 行目	concentrations <b>s</b>	concentration

## No.7 青ヶ島火山地質図および伊豆諸島南方海底火山地質図 正誤表

(2007. 6 現在)

		誤	正
本文 p. 2	右列上から 14 行目	southeasern	southeastern
	右列上から 25 行目	aeromagmatic	aeromagnetic
本文 p. 3	左列上から 15 行目	Taylor et. al.	Taylor et al.
本文 p. 4	左列下から 26 及び 27 行目	新歴	新暦
	右列下から 25 行目	Takada et. al.	Takada et al.
本文 p. 5	左列上から 1-2 行目	高温でり	高温であり
	右列下から 15 行目	明かに	明らかに
	右列下から 15 行目	Yuasa et. al.	Yuasa et al.
本文 p. 7	左列上から 14 行目	明かに	明らかに
	左列上から 17 行目	Nishimura et. al.	Nishimura et al.
	左列下から 26 行目	Hochstaedter et. al.	Hochstaedter et al.
	左列下から 24 行目	Fryer et. al.	Fryer et al.
	左列下から 21 行目	青ヶ島	青ヶ島

No.8 雲仙火山地質図 正誤表 【第2刷(2012)は修正済み】

(2012.4 現在)

		誤	正
地質図	地質図下端の緯度表示 (左下隅, 右下隅の2ヶ所)	32° 43' 10"	32° 41' 35"
	地質図右下の岩石鉱物名略 号表	:含有	.:含有
本文 p.7	右列 参考文献一つ目	檀原 徹・岩野秀樹・	檀原 徹・岩野英樹・
	右列 上から5行目	north-eastern	northeastern
本文 p.8	左列 上から5行目	north-eastern	northeastern
	右列 上から4行目	distingwishable	distinguishable



## No.9 那須火山地質図 正誤表

(2007.6 現在)

		誤	正
本文 p.4	右列 下から3行目	灰色のを	灰色を
本文 p.7	右列 8. 火山活動の監視体制の1-2行目	宇都宮地方気象台那須岳火山観測所が東南山麓の黒磯市内にあり,	宇都宮地方気象台が,

## No.10 伊豆大島火山地質図 正誤表


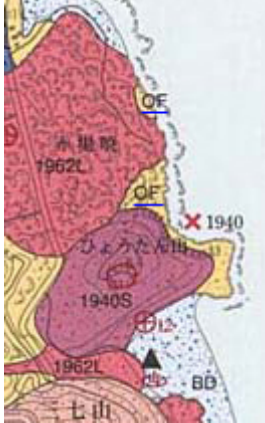
(2007.6 現在)

		誤	正
本文 p.6	右列 上から9行目	向って	向 <b>か</b> って
本文 p.8	右列 上から11行目	volcano is	volcano <b>are</b>

No.12 三宅島火山地質図 正誤表

(2007.11 現在)

		誤	正
地質図	姉ヶ潟溶岩流の試料採取位置 (no.4)	 <p>採取地点が溶岩流分布範囲から外れている。</p>	港に流下した溶岩の東より(棧橋の付け根付近)
地質図	1712年スコリア丘 (1712S)	 <p>1712S とすべきスコリア丘が 1712L となっている。</p>	左図で青線を引いた 1712L は 1712S
地質図	三池港クラマ根		クラマ根の溶岩は安山岩ではなく玄武岩なので雄山期未区分噴出物 (OY) の方が適切。
地質図	誤字 (地名)	 <p>大船若山</p>	大般若山

地質図	誤字（ルビ）	 <p>こっぱな</p>	こっぱな
地質図	1940年溶岩流 (1940L)		1962L (赤場暁) 及び 1940S (ひょうたん山) の東側の海岸線の OF (青線を引いたもの) は, 1940L (1940年溶岩流) が正しい
凡例		霽が平溶岩	霽が平溶岩流
凡例		大船戸期スコリア丘・火砕丘	霽が平スコリア丘
p. 7	参考文献 気象庁 (1984)	験震時, no. 49	験震時報, vol. 49
	Abstract 下から 22 行目	activities	activities

No.13 岩手火山地質図 正誤表

(2012. 4 現在)

		誤	正
本文 p.4	第 4 図英文 Caption	eruptred	erupted
本文 p.7	主な参考文献 土井宣夫 (1991)	岩手山山麓の	岩手火山山麓の
	Abstract 第 3 段落 6 行目	Aoyamacyo Ooishiwatari	Aoyamacho Oishiwatari
	Abstract 第 4 段落 4-5 行目	Hirakasa Fudo	Hirakasafudo
	Abstract 第 4 段落 7 行目	thouthand	thousand
	Abstract 最終段落 3 行目	eruped	erupted
	Abstract 最終段落下から 4 行目	fumalrolic	fumarolic
	Abstract 最終段落下から 3 行目	seismisity	seismicity
	Abstract 最終段落下から 2 行目	fumalrolic	fumarolic
	Abstract 最終段落最終行	extrusion	extrusion.

## No.14 口永良部島火山地質図 正誤表

(2012. 2 現在)

		誤	正
p. 7	引用文献 斎藤・井口 (2006)	火山, vol. 21, p. 51-30	火山, vol. 51, p. 21-30

## No.15 樽前火山地質図 正誤表

(2012.4 現在)

		誤	正
p. 2	左列下から 3 行目 右列下から 3 行目	スコリア流堆積物	Ssfl
p. 5	図 3-1~4 キャプション追加		層厚測定点の黒丸は著者測定, 黒四角は既存文献の引用.

**No.16 十勝岳火山地質図 正誤表(2012.4 現在)**

		誤	正
地質図	「全岩組成分析試料の採取地点」のうち、11, 21, 22, 23, 25, 27	⊗	⊕
p. 7	引用文献 佐藤戈止 (1926)	地質調査報告	地質調査所報告